

若年者に対する職業意識の啓発について

—学生職業総合支援センターの業務概要—

佐原史枝 学生職業総合支援センター 統括職業指導官

当センターでは、学生及び若年者（専修学校卒以上で30歳未満）を対象とした、就職活動に対するさまざまな支援を実施しています。

まず、当センターで運営しているホームページ上からクラブ会員登録をすることにより、それらのサービスを受けられます。会員登録することにより個別のIDとパスワードを取得し、全国の学卒求人情報を自宅のパソコンから検索できます。

その他、「六本木ジョブパーク 就職フェア」の開催、企業の説明会、インターンシップの募集、業界ガイダンス、適性検査やグループワークの実施、就活セミナーの開催など、各種情報について収集ができる一方、個別相談の予約、模擬面接、応募書類の添削など、就職活動に役立つ支援も受けられます。これらの情報の一部はセンターからもメールにより情報を希望する会員にお知らせしています。

当センターと学生の最初の接点は、翌年度卒業予定者等を対象に実施する秋の「就職活動準備フェア」で、学生にとっては初めての就職活動をスタートさせるための支援として様々な講座を組んでおり、たくさんの学生が参加しています。

「就活スタート講座」「自己分析体験セミナー」「エントリーシート対策講座」「業界探検セミナー」「創業サポート講座」「グループディスカッション」「Uターン就職ガイダンス」「障害学生就職ガイダンス」など内容は盛りだくさんです。

また、同時期、卒業年次の学生については、リクナビやHP等からの応募により早々と内定がとれている学生もいますが、まだ就職活動が続いている学生も多く、少し疲れてしまっている学生もいます。

センター学卒求人は4月以降の公開であるため、春から翌年2月にかけて当センター主催による「六本木ジョブパーク 就職フェア」を開催し、卒業年次の学生や、すでに卒業した若年者に広く参加を呼びかけています。

最近の経済状況の好転により、求人状況も改善されセンターに申し込まれる都内の求人は増加しており、企業の採用意欲が増していることを反映して、就職フェアに参加を希望する企業は定数1日48社を大幅に上回り、5倍前後の倍率で抽選により決定しています。

しかしながら、残念なことに当センターの利用者は年々減少しており、初めて訪れる利用者に聞いても、「学生の時にこのような公的機関があることを知らなかった」という若年者がほとんどであり、まだまだ知名度が低いと言わざるを得ない状況です。

原因の一つには、インターネットの急速な普及により、学生の就職活動は自宅等でパソコンを検索することから始まるようになったことです。

また、当センターの名称からのイメージでは、卒業生がはたして利用できる場所なのかという疑問をもち、敷居が高く感じているのではないかと想像できます。

このため、センターでは積極的に都内近県の大学を訪問し、まずは就職担当事務局から学生に周知していただくよう願っています。また、リーフレットなどにより、卒業者の支援、職業相談、職業紹介も併せて実施していることなどを、学生が先輩から後輩に、順々に伝えていってもらえるようなシステムをなんとか作りたいと考えております。そのためには、当センターを利用する学生及び若年者が「行ってみたら良い

ところだった」と思うような、ほんと安心してできるような場所として、暖かく迎えたいのです。

1 学生職業総合支援センターを訪れる若年者

当センターの日常業務である予約によるブース内での相談は、適職相談担当のカウンセラー2名と業界相談担当のアドバイザー5名、職員4名で対応しています。

傾向としては、適職相談を主に受けているカウンセラーの予約が先に埋まることが多く、会員の希望日を先に送るなど調整させていただいています。

その原因としては、若年者の希望する相談内容を見れば一目瞭然、「自分にはどんな仕事に向いているのか?」「どうやって就職活動に取り組んだらよいのか?」「何を選んだらよいのか?」「自己PRができない」などの不安や、内定が取れないための自信喪失により、一時的に目標を失ってしまうため、なにか拠り所を求めて、思い切って相談の予約をするのだと考えられます。

予約はインターネットからはもちろん、電話や窓口でもできます。

電話や窓口での予約の際、何か言い出しにくそうに申し込んで来られる方は初回の方で、「ここで本当に相談してもらえるのだろうか?」「どんな相談が受けられるのだろうか?」というような、遠慮がちであったり、相談内容をうまく説明できなかったりと、様々な反応を見せます。

これまでの就職活動、あるいは学生生活において、自分自身を否定されたと感じることや、挫折感を味わうことに耐性がないため、そのような状況に直面することを極度に怖れているように見えます。

また、早い時期に内定したものの、早期に離職する若年者もいます。入社時に思い描いていたものと現実とのギャップがあまりにも大きかった方、他方では問題のある企業が採用基準を甘くし、多くの学生を採用し、その企業の考え方について来られる者だけが残ればいいという考えで、大量離職者を出すという実態もありました。

そのような離職者の中には、精神的ダメージを受けている場合があり、初回の面談では表面的にはわからないこともあることから、予約相談において初回は特

に気を配り、相談者が話しやすい雰囲気を作ることを第一目的としています。

1回につき1時間の枠は、相談を受けてみると短く感じられる方もいるようですが、これまでの就職活動での後悔や将来に対する不安について充分話すことで、ある程度の道筋をつけることができ、おおむね満足し、次のステップに進もうと意欲を表明する方がほとんどです。

2 センターでの支援の流れ

カウンセラーとの相談に入る前に、提案として「VPI職業興味検査」を受けることを勧めています。

毎週2回、定員8名で実施し、終了後結果の見方をカウンセラーが解説します。その時の結果を見ながら相談することがより効果的であるからです。

その後、目指す業界や職種の方決まれば、次の段階として業界アドバイザーに業界相談を予約して受けることをお勧めします。一歩進んで業界研究、職業研究の仕方や、その業界に入るために何が必要か、どんな人が向いているかなど、アドバイザーとともに就職活動の対策を立て、最近の現状や条件、労働環境などの解説と求人情報、企業情報の収集方法などについて説明します。

企業選択の段階になったら、応募書類の作り方、添削、模擬面接を何度か繰り返し実施します。もちろん一度で自分のやり方をみつけて応募していく方もいますが、自己PRの部分でうまく表現できない場合が多いようです。

そのような方には「自己分析 グループワーク」に参加することを勧めています。就職したいという、同じ目的を持った若者同士が10数名集まり、カウンセラーが進行役となって、グループの自主性を尊重しながら、お互いの価値観の違いを認識し、違っていても構わないと認めることから、自分自身を客観的に評価でき、良いところも見つけてもらい、自分自身について皆の前で話すことができるようになることを目指します。最後に模擬面接で、面接官の役を交代でやることにより、相手の立場にたって考えることを体験します。

実施回数は少ないですが、貴重な体験を得られるものと、当センターにおいても若年者の職業意識啓発に効果が期待できる内容と自負しています。

個々の支援の内容については、別図により解説いたしました。個々の内容を詳細にというわけにはいきませんが、支援メニューについて簡単にわかりやすく図解してあります。

学生等若年者には、これらの支援メニューを利用していただき、まず行動することから就職活動が始まることを伝え、自分からどの支援を受けるか考えて、選んでいってほしいと思います。

最後には自分に自信を持って、面接に臨み、二次、

三次、最終面接と相談しながら進み、結果として就職を決めることができれば、本人はもちろんセンタースタッフ全員の喜びでもあります。

就職の報告をもって、センターを訪ねてくださる方も少なからずいて、うれしそうに今後の抱負などを語ってくれます。

そのような時、初めて相談に来た時と比べて、随分大人になったと、喜ばしく、まぶしく見え、帰っていく背中が頼もしく思えるのです。

